

令和3年度
横須賀美術館 運営評価報告書

令和4年（2022年）8月
横須賀市文化スポーツ観光部
美術館運営課

目次

1	令和3年度 横須賀美術館の運営評価について	1
2	令和3年度の運営評価システム	3
3	令和3年度の運営評価結果	6
	① 広く認知され、多くの人にとって横須賀市を訪れる契機となる。 ..	7
	② 市民に親しまれ、市民の交流、活動の拠点となる。	13
	③ 調査研究の成果を活かし、利用者の知的欲求を満たす。	16
	④ 学校と連携し、子どもたちへの美術館教育を推進する。	22
	⑤ 所蔵作品を充実させ、適切に管理する。	26
	⑥ 利用者にとって心地よい空間、サービスを提供する。	29
	⑦ すべての人にとって利用しやすい環境を整える。	33
	⑧ 事業の質を担保しながら、経営的な視点をもって、効率的に 運営・管理する。	36
4	with コロナの取り組み	38
5	横須賀美術館運営評価委員会 委員名簿	41
6	横須賀美術館運営評価委員会条例	42

1 令和3年度 横須賀美術館の運営評価について

(1) 運営評価の目的

横須賀美術館の運営評価は、現在行っている活動を振り返り、適正に行われているかを自己点検することで課題や反省を自覚し、改善点の検討につなげるものです。

美術館は1年間の活動をまとめ、自らの評価（一次評価）を行います。一次評価を運営評価委員会に報告し、運営評価委員会は活動内容を市民目線でチェックし、二次評価を行います。併せて、美術館の業務改善、よりよい活動につなげていくことを目的として、改善点や活動の提言を行います。

5頁に掲載した図のとおり評価全体の流れはPDCAサイクルによる改善を基本としています。個々の業務を計画(P:Plan)し、実行(D:Do)していき、その内容を評価(C:Check)し、これを改善(A:Action)につなげていきます。

毎年この活動を繰り返していくことで、よりよい横須賀美術館を目指していくものです。

(2) 評価項目

横須賀美術館は、その設置条例第1条に「美術を通じたさまざまな交流の機会を促進し、市民の美術に対する理解と親しみを深め、もって文化の向上を図る」と、設置の目的を明記してあります。そしてこの目的に沿った「使命」を掲げ、「使命」に基づいた「目標」を示し、この目標を評価項目として体系づけました。それぞれの目標には、「達成目標」と「実施目標」を掲げ、これが具体的な評価をしていく項目となります。

なお、「達成目標」は数的指標であり、具体的な数値目標が示されるため、達成の成否は客観的に明らかです。評価者は、その他の資料もあわせみたくうえで、達成の度合いを判断し、総合的な評価を行います。

いっぽう、「実施目標」は質的指標であり、評価者は、運営者の行動報告に基づいて、主観的評価を行います。

評価項目は、「令和3年度評価システム」として4～5頁をご覧ください。

(3) 評価基準

達成目標と実施目標共通の基準を設けています。

目標に到達したかを「S」から「D」の5段階とし、以下の基準としました。

S：優れた成果を挙げている

A：目標を達成している

B：目標をほぼ達成している

C：目標にはほど遠い。より一層の努力を要する

D：努力が結果に結びついていない。方法そのものについて再検討を要する

二次評価を評価委員が行う際には、上記のほか、F：判定不能を設けています。

*現在の評価項目は、平成22年度に見直し、現在に至っています。

【目標の性格】（平成 22 年度から）

「目標」ごとに、「達成目標」と「実施目標」を設けた。

「達成目標」：数的指標

- ・「目標」の達成度合いを端的にしめす数値目標。
- ・主に外的要因（来館者の動向など）によって結果が左右される。
- ・達成したかどうかは客観的に判断される。
（達成した場合の S/A の別、達成しなかった場合の B～D の別は、各委員の裁量の範囲。）

「実施目標」：質的指標

- ・「目標」を達成するための行動計画。
- ・運営者側の計画的な行動であり、充分であるかどうかは各委員の主観的な判断による。
- ・端的な指標に過ぎない「達成目標」のみでは把握できない部分を補う役割がある。

【評価基準】

「達成目標」と「実施目標」に共通の評価基準を適用する。

評価基準 (平成 22 年度から)	
すぐれた成果を挙げている。	S
目標を達成している。	A
目標をほぼ達成している。	B
目標にはほど遠い。 より一層の努力を要する。	C
努力が結果に結びついていない。 方法そのものについて再検討を要する。	D
判定不能	F

S～D の 5 段階評価に、「F」（判定不能）を加えた。「A」と「B」の間に「目標」がある。

- ・目標を達成していれば「A」以上となり、よい評価であることがわかりやすい。
- ・目標より下に段階を設けることにより、目標を達成していない場合、その度合いを表現しやすくなった。
- ・結果が著しく劣っている、あるいは努力の方向が間違っているために、方法そのものの再検討が必要な場合のために、「D」評価を設けた。
- ・専門的な知識が必要であるなどの理由から、評価ができないという場合のために「F」（判定不能）を設けた。

【令和3年度 一次評価の方針】

令和3年度は、新型コロナウイルス感染症の影響により、一部の事業の中止を余儀なくされました。したがって、一次評価にあたっては、横須賀美術館として、次のような評価方針のもと、一次評価を実施しました。

1 年間を通じた数量で評価するもの ⇒ F判定

- ①【達成目標】年間観覧者数 110,000 人以上
- ②【達成目標】市民ボランティア協働事業への参加者数延べ 2,400 人
- ④【達成目標】中学生以下の年間観覧者数 22,000 人
- ⑦【達成目標】福祉関連事業への参加者数延べ 240 人以上
- ⑧【達成目標】電気使用量、水道使用量、事務用紙使用枚数を、過去2年間の
平均値を目安とする。

2 アンケート結果で判断するもの ⇒ 取得できたアンケート結果をもとに判定

- ③【達成目標】企画展の満足度 80 %以上
- ⑥【達成目標】館内アメニティ満足度 90 %以上
スタッフ対応の満足度 80 %以上

3 年間を通じた活動実績で評価するもの

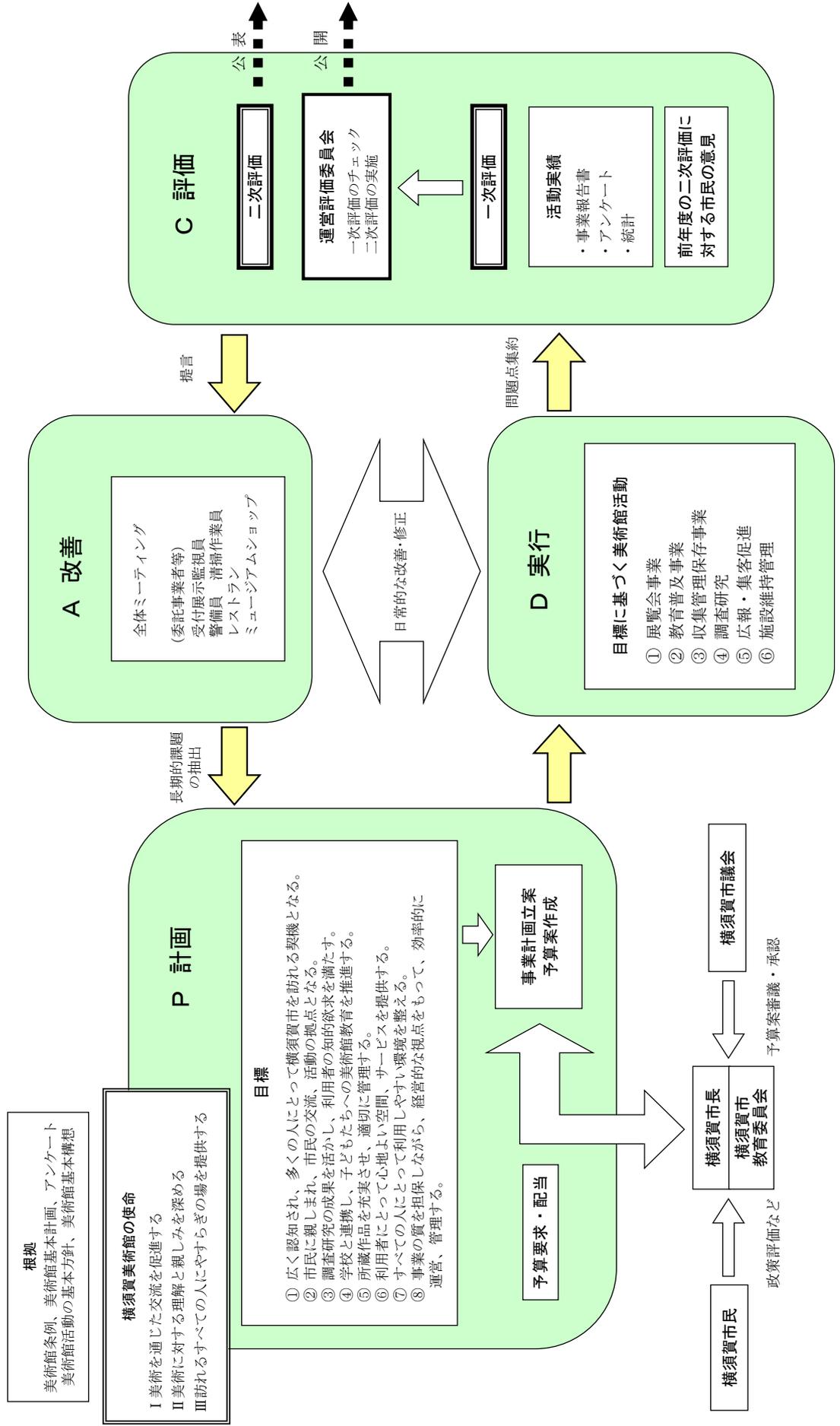
上記以外

2 令和3年度の運営評価システム

使命 目標 指標		データなど
I 美術を通じた交流を促進する 【集客・交流推進】		
① 広く認知され、多くの人にとって横須賀市を訪れる契機となる。 〔広報〕		
達成目標	・年間観覧者数110,000人以上	・年間観覧者数(年度別推移) ・年間来館者数(年度別推移) ・駐車場利用状況(年度別推移) ・来館回数(年度別推移) *リピート率 ・居住地域(年度別推移) *市民率 ・交通手段(年度別推移)
実施目標	・様々な広報媒体の特性を生かして、効果的な広報活動を実施し、交流を促進する。 ・各種イベントを開催し、展覧会以外の要因での利用を増やす。 ・外部連携を推進し、様々な機会と場所を捉えて、美術館の情報を発信する。 ・旅行会社などへの働きかけを通じて、団体集客を促進する。 ・美術館のイメージアップにつながるようなTV放送、雑誌取材、プロモーションビデオ撮影などの商業撮影、取材を受入れる。	・各種メディアへの掲載実績 ・訴求活動の概要(ポスター等配布、リリース発送の状況)
② 市民に親しまれ、市民の交流、活動の拠点となる。 〔市民協働〕		
達成目標	・市民ボランティア協働事業への参加者数延べ2,400人(事業ごとに加算。登録者・一般参加者を総合して)	・各事業ごとの開催回数、参加者数の一覧 →サボボラ研修 所蔵品展ギャラリートーク(参加者数、参加ボランティア数) 小学校鑑賞会補助(参加ボランティア数のみ) ワークショップ補助(参加ボランティア数のみ) プロジェクトボランティア会議 プロジェクトボランティアイベント(参加者数、参加ボランティア数)
実施目標	・市民が美術館に親しみを感じ、訪れる機会をつくる。 ・市民ボランティアが、やりがいを持っていきいきと活動できる場を提供する。	・ボランティア関連事業の概要 ・(ボランティアの感想・反応)
II 美術に対する理解と親しみを深める 【社会教育】		
③ 調査研究の成果を活かし、利用者の知的欲求を満たす。 〔展覧会・教育普及〕		
達成目標	・企画展の満足度80%以上	・各企画展の満足度 ・所蔵品展の満足度(年度別推移) ・谷内六郎展の満足度(年度別推移)
実施目標	・幅広い興味に対応するようバランスをとりながら、年間6回(児童生徒造形作品展を含む)の企画展を開催する。 ・所蔵品展・谷内六郎展をそれぞれ年間4回、テーマをもたせた特集を組みながら開催する。 ・知的好奇心を満たし、美術への理解を深める教育普及事業を企画・実施する。 ・美術への興味や理解が深まる美術関連の資料(図書、カタログ等)を、図書室で収集・整理・保管・公開する。 ・資料が探しやすく、快適に利用できる図書室環境を維持する。 ・主として所蔵作品・資料に関する調査研究を行い、その成果を美術館活動に還元する。	・各企画展(児童生徒造形作品展を除く)の概要(ねらい、担当者の感想・反省点) ・所蔵品展の概要(同) ・谷内六郎展の概要(同) ・講演会・アーティストトーク等の実施状況(同) ・大人向けワークショップ等の実施状況(同) ・図書室の概要(図書新規購入額・点数、寄贈図書の点数) ・図書室の利用状況(利用者の月別推移、担当者の感想・反省点) ・学芸員による論文、発表等

④学校と連携し、子どもたちへの美術館教育を推進する。		[若年層への教育普及]
達成目標	・中学生以下の年間観覧者数22,000人	・観覧者数の券種別内訳(月別推移、年度別推移) ・子どもを対象とした教育普及事業の参加者数(延べ人数の年度別推移)
実施目標	・学校における造形教育の発表の場として、児童生徒造形作品展を実施する。 ・学校及び関係機関と緊密に連携し、子どもたちにとって親しみやすい鑑賞の場をつくる。 ・学校との連携を強化し、小学生美術鑑賞会を充実させる。 ・美術館を活用した鑑賞教育がいつそう充実するよう、先生のための美術館活用講座をはじめ、教員の授業作りに有益な情報提供を積極的に行う。 ・子どもたちとのコミュニケーションを通じて、美術の意味や価値、美術館の役割などに気づき、考え、楽しみながら学ぶ機会を提供する。 ・鑑賞と表現の両方を結びつけたプログラムを実施する。	・児童生徒造形作品展の概要(担当者の感想・反省点)(学校側の反応) ・小学校美術館鑑賞会の概要(実施内容、学校数、児童数、対応職員・ボランティア数、担当者の感想・反省点)(学校側の反応) ・中学生のための美術鑑賞教室の概要(実施内容、担当者の感想・反省点)(生徒の感想) ・子ども向けワークショップ等の実施状況 ・研修等の受入れ状況
⑤所蔵作品を充実させ、適切に管理する。		[収集管理]
達成目標	・環境調査の実施(年2回) ・美術品評価委員会の開催(年1回)	
実施目標	・収集方針に基づき、主体性を持って積極的な収集活動を行う。 ・適正な保管環境を維持し、そのチェックのため必要な調査を実施する。 ・計画的に所蔵作品の修復、額装を行う。 ・所蔵作品が広く価値を認められ、他の美術館等で開催する企画展などに活用されている。	・作品収集の状況 ・保管環境の状況 ・所蔵作品の修復状況 ・所蔵作品の貸出状況(件数、点数)
Ⅲ訪れるすべての人にやすらぎの場を提供する		[運営・管理]
⑥利用者にとって心地よい空間、サービスを提供する。		[メンテナンス・来館者サービス]
達成目標	・館内アメニティ満足度90%以上 ・スタッフ対応の満足度80%以上	・アメニティ関連各項目の満足度(年度別推移) →全般・館内印象・館内環境・休憩所・トイレ・清掃 ・スタッフ対応の満足度(年度別推移)
実施目標	・建築のイメージを損なわないよう、十分なメンテナンス、館内清掃を行う。 ・受託事業者と協力して、ホスピタリティのある来館者サービスを実践する。 ・運営事業者と協力して、付帯施設(レストランおよびミュージアムショップ)を来館者ニーズに応じて運営する。	・メンテナンスの概要 ・運営事業者連絡会議の概要(議題等) ・ケータリング実績
⑦すべての人にとって利用しやすい環境を整える。		[バリアフリー]
達成目標	・福祉関連事業への参加者数延べ240人以上	・福祉関連事業の開催回数、参加人数 福祉関連ワークショップ 福祉関連パフォーマンス 障害児を対象としたワークショップ
実施目標	・年齢や障害の有無などにかかわらず、美術に親しんでもらう(環境づくり)のための各種事業を行う。 ・必要に応じて、対話鑑賞等の人的サポートを実践する。 ・展覧会の観覧やワークショップ等に参加される保護者向けの託児サービスについて、積極的に周知し、利用しやすい内容で実施する。	・福祉関連講演会の概要 ・福祉関連ワークショップの概要 ・福祉関連パフォーマンスの概要 ・障害児を対象としたワークショップの概要 ・託児サービスの概要 ・養護学校等の受け入れ状況
⑧事業の質を担保しながら、経営的な視点をもって、効率的に運営・管理する。		[経営的視点]
達成目標	・電気使用量、水道使用量、事務用紙使用枚数を、過去2年間の平均値を目安とする。	・エネルギー消費量一覧
実施目標	・職員全員が費用対効果を常に意識し、事業に取り組む。	・歳入及び歳出の内訳

横須賀美術館運営評価システムの全体像



3 令和3年度の運営評価結果

I 美術を通じた交流を促進する

① 広く認知され、多くの人にとって横須賀市を訪れる契機となる。

[一次評価]

達成目標	実施目標
F	A

【達成目標】年間観覧者数 110,000 人以上

[目標設定の理由]

- ・「横須賀市立美術館基本計画」(平成 12 年 6 月策定)では、他の公立美術館の実績を参考に、施設の規模、本市の人口などから年間観覧者数を 10 万人と推定し、年間観覧者数の目標としてきましたが、近年の観覧者数(平成 29 年度～令和元年度)は、いずれも 11 万人を超えています。
- ・そのような状況を踏まえ、令和 2 年度から達成目標の数値を 10 万人から 11 万人に引き上げました。
- ・観覧者の見込み数は、展覧会ごとの開催時期や過去に開催したターゲットの近い展覧会の実績などを勘案し算定しています。

[一次評価の理由]

- ・年間観覧者数 110,000 人という目標設定に対し実績は、91,809 人となり、達成率 83.5%と目標を下回りました。コロナ禍で多くのお客様の来館が見込まれる時期に臨時休館、または企画展が開催されない状況であったことから 1 年をとおした評価ができないと考え「F」評価としました。

	平成 30 年度	令和元年度	令和2年度	令和3年度
観覧者数	111,431 人	151,431 人	48,827 人	91,809 人

	展覧会名	会期	見込(人)	実績(人)	達成率(%)
企 画 展	糸で描く物語展	4/24-6/27	16,000	18,010	112.6
	酒井駒子展	7/10-9/5	30,000	14,383	47.9
	ビジュツカンノススメ展	9/18-11/7	12,000	10,967	91.4
	遊べる浮世絵展	11/20-12/26	7,000	9,514	135.9
	第74回児童生徒造形作品展	1/13-1/31	14,000	12,979	92.7
	ミロコマチコ展	2/11-4/10	22,000	21,449	97.5
	所蔵品展のみの期間	上記以外	9,000	4,507	50.0
	計		110,000	91,809	83.5

※ 令和3年8月23日～9月30日は新型コロナウイルス感染症対策のため臨時休館

【実施目標】

- ・ 様々な広報媒体の特性を生かして、効果的な広報活動を実施し、交流を促進する。
- ・ 各種イベントを開催し、展覧会以外の要因での利用を増やす。
- ・ 外部連携を推進し、様々な機会と場所を捉えて、美術館の情報を発信する。
- ・ 旅行会社などへの働きかけを通じて、団体集客を促進する。
- ・ 美術館のイメージアップにつながるようなTV放送、雑誌取材、プロモーションビデオ撮影などの商業撮影、取材を受入れる。

【目標設定の理由】

- ・ 横須賀美術館は、本市の貴重な都市資源であり、これを有効活用することは、本市の観光立市の推進という観点からも重要になります。市内外に積極的に情報を発信して広い層に魅力をアピールすることで知名度や認知度を向上させていくことが必要と考え、実施目標として設定します。
- ・ 広報、パブリシティ活動にあたっては、当館の利用者層や展覧会ごとのターゲット層に応じた効果的な広報を実施します。
- ・ そのために、様々な広報媒体をその特性を踏まえて効果的に活用し、特に若い世代に対しては積極的にツイッターなどのSNSを活用していきます。
- ・ Wi-Fi等を活用し、来館者に魅力的な情報提供、情報発信を促します。

【一次評価の理由】

- ・ 昨年度に比べ、観覧者数が増加したことや、ホームページリニューアルにより、コロナ禍の中で積極的な情報発信の拡充を行ったこと、また、ツイッターのフォロワー数が前年に比べさらに増加し14,827人（2022年3月31日現在）となったことや、令和3年3月から運用しているインスタグラムのフォロワー数がこの1年間で3,000人以上増加したことから、「A」評価としました。

《広報・集客促進事業》

展覧会、イベント、ロケーションなど横須賀美術館の魅力をフル活用し、横須賀の交流拠点として集客に取り組んでいきます。そのために、企画展情報だけでなく、美術館の総合的な魅力や外部との連携による地域情報を積極的に発信していきます。

(1) 訴求活動による集客促進

- ・パブリシティを期待した新聞、雑誌等への展覧会リリース
- ・新聞、雑誌等の無料での情報掲載数は380件となり、目標の220件の1.72倍を上回る数字を達成することができました。

(単位：件)

媒体	平成30年度	令和元年度	令和2年度	令和3年度
新聞	183	136	99	130
雑誌	45	29	32	21
Web	29	54	57	76
フリーペーパー	39	34	60	105
書籍	1	0	10	6
会報誌	2	0	0	0
TV	17	22	13	11
ラジオ	4	4	8	2
その他	0	0	23	2
合計	320	279	302	380

- ・広報よこすか等他部局の広報媒体を活用した情報発信
⇒広報よこすかへの展覧会情報、美術館のイベント等の掲載
- ・公共交通機関への広告掲出
⇒京浜急行線 駅貼り（2週間）3回
※ 糸で描く物語展、生誕100年 谷内六郎展、遊べる浮世絵展で実施
- ・SNS（ツイッター、フェイスブック、インスタグラム）による有料広告
⇒糸で描く物語展、海の広場の東欧音楽コンサート、酒井駒子展、
ビジュツカンノススメ、生誕100年 谷内六郎展、遊べる浮世絵展、
ミロコマチコで実施
- ・美術系雑誌やタウン紙等、有料での情報掲載
⇒新聞、タウン紙、雑誌等での広告
産経新聞、デイリースポーツ、はまかぜ新聞（生誕100年 谷内六郎展）
- ・インバウンド推進のための外国語情報発信の拡充
⇒ホームページのリニューアルを行い、多言語に対応するようにしました。
英語、中国語（簡体字・繁体字）、韓国語、ほか自動翻訳機能対応
（令和4年3月より本格運用）
- ・ホームページ、ツイッター、フェイスブック、インスタグラムを活用した情報発信

⇒ホームページのリニューアルを行い、デザインを刷新しました。周辺観光情報を追加・拡充し、近隣施設や市内周遊を図る情報発信を行っています。
(令和4年3月より本格運用)

⇒美術館公式ツイッターの運用状況

フォロワー数は14,827人で昨年度末12,482人より約2,345人増加しました。

【参考】2022年3月31日現在 フォロワー：14,827人、ツイート：6,802回

※ ツイッターは平成24年9月29日より運用開始

⇒フェイスブックの運用状況

(運用開始:谷内六郎館 平成27年7月31日～、横須賀美術館9月9日～)

2022年7月31日現在

横須賀美術館：3,534「いいね!」、谷内六郎館：547「いいね!」

⇒インスタグラムの運用状況

(運用開始：令和3年3月4日)

フォロワー：3,534人、投稿479回(2022年3月31日現在)

SNS毎の特性を活かした情報発信に努めていきます。

(2) イベント開催など展覧会以外の要因で利用者を増やす取り組みの推進

- ・コンサート等、各種イベントの開催

実施日	イベント名	参加者
1/11	横須賀美術館 ニューイヤーコンサート	71人

(3) 外部連携の推進

①他部局との連携

- ・本市で開催予定であった第32回全国「みどりの愛護」のつどいを記念して「第1期所蔵品展 特集：第32回全国「みどりの愛護」のつどい開催記念 みどり輝く」、「谷内六郎(週刊新潮 表紙絵)展 第32回全国「みどりの愛護」のつどい開催記念 みどりのちから」を開催するほか、上記つどいに関連するイベントへの広報協力を行った。
- ・koyartプロジェクト 農業振興課と連携した「よこすか野菜のPR」
- ・観光課「よこすかルートミュージアム デジタルスタンプラリー」「横須賀フォトコンテスト」への協賛
- ・商業振興課後援「ダウンタウンフェスティバル」への協賛
- ・米海軍横須賀基地在住者の誘致
⇒What's New in Yokosuka(市ホームページ内外国人住民向け情報ページ)への展覧会情報の掲載

外国人観覧者数（H28年度から集計）

	西洋系	東洋系	その他	計
H29年度	712人	694人	55人	1,461人
H30年度	676人	843人	93人	1,612人
R1年度	588人	963人	102人	1,650人
R2年度	243人	486人	30人	759人
R3年度	416人	641人	36人	1,093人

- ・ふるさと納税へ商品提供

⇒観覧券＋レストランアクアマーレ食事券の提供

②民間事業者との連携

- ・民間事業者との広報協力、イベント参加による情報発信

⇒タイアップメニュー（展覧会コラボレーションメニュー）
（アクアマーレ、観音崎京急ホテル）

⇒広報協力（観音崎京急ホテル、湯楽の里、東京湾フェリー、ソレイユの丘 ほか）

⇒各種学園祭等のイベント協力によるPR（実践女子大学、慶応義塾大学ほか10校）

⇒サンフジ企画、横須賀市観光協会への協賛

- ・福利厚生団体等との割引施設契約の実施

⇒JAF、JT Bベネフィット、リロクラブ、神奈川県厚生福利振興会
神奈川県市町村職員共済組合 など

- ・京浜急行電鉄「よこすか満喫きっぷ」「三浦半島まるごときっぷ」への参加

種類／年度	令和元年度	令和2年度	令和3年度
よこすか	3,720人	595人	1,050人
三浦半島	-	2人	21人

※「よこすか満喫きっぷ」はH29年7月、「三浦半島まるごときっぷ」はR2年10月参加

③近隣地域との連携

- ・町内清掃、防犯パトロールなど地域活動への参加

⇒観音崎海岸清掃、近隣町内会清掃活動への参加

- ・観音崎全体の魅力を向上させるためのイベントの開催

⇒例年参加しているが、コロナ禍のため令和3年度は中止

- ・地域での消費活動を促進する取り組みの検討

⇒タイアップメニュー（展覧会コラボレーションメニュー）の実施
併設レストランアクアマーレで企画展、特別展にあわせて実施

⇒観音崎施設共通割引（観音崎京急ホテル、観音崎自然博物館、
BEACH⇔PARK LIVING）への参加

⇒ koyart プロジェクト 大学研究室や企業との連携

- ・協賛企業の募集（展覧会に協賛（寄附）をしてくれる企業を募集）
⇒令和3年度応募実績：2社
久里浜中央自動車学校（児童生徒造形作品展）、一般財団法人シティサポート
横須賀（第4期所蔵品展特集「横須賀市立横須賀総合高校美術活動の歩み」）

(4) 団体集客の推進

例年、団体集客の誘致やウェルカムトークなどを行っているが、令和3年度はコロナ禍のため、団体の来館はほとんどなく、営業活動等も行わなかった。

【参考：例年行っていること】

- ・市内民間事業者と連携した旅行会社への団体ツアーの企画提案、誘致
- ・ウェルカムトークの実施

	平成30年度		令和元年度		令和2年度		令和3年度	
	団体数	観覧者数	団体数	観覧者数	団体数	観覧者数	団体数	観覧者数
募集型	18	549	5	154	2	44	39	1,160
その他	134	5,300	112	4,435	7	281	18	1,146
計	152	5,849	117	4,589	9	325	57	2,306

(5) 商業撮影の受入と誘致

- ・イメージアップと認知度の向上を目的に商業撮影を受け入れた。

年度	平成30年度	令和元年度	令和2年度	令和3年度
撮影件数	37件	9件	5件	40件
使用料	2,134,645円	323,476円	206,109円	3,026,225円

〔評価委員会による二次評価及びコメント〕

	一次評価	二次評価	評価委員会コメント
達成目標	F	F	<ul style="list-style-type: none"> ・一次評価時の留意点を妥当と評価した。[小林] ・コロナ禍における実績としては、S評価に値する来場者数であるが、定量評価のためFとし、実施目標において評価。[菊池] ・コロナ禍の状況にあって、90,000人以上の観覧者、175,000人以上の来館者を得たことは、館の魅力発信の効果であり評価したい。 [柏木] ・臨時休館等があり、通年での評価が難しい。 [安藤]

	一次評価	二次評価	評価委員会コメント
実施目標	A	A	<ul style="list-style-type: none"> ・制限された運営の中で、来場者のモチベーションを刺激する演出と周知により、多くの人々が美術館へ足を向ける効果を発揮した。[菊池] ・媒体への露出数が増えており、その取り組みを評価する。[柏木] ・コロナ禍の中で SNS を中心とした積極的な情報発信を行ったため。[安藤]

② 市民に親しまれ、市民の交流、活動の拠点となる

〔一次評価〕

達成目標	実施目標
F	F

【達成目標】 市民ボランティア協働事業への参加者数 延べ2,400人
(事業ごとに加算。登録者・一般参加者を総合して)

〔目標設定の理由〕

- ・活動者数および協働事業への参加者数は、「活動が活発に行われているか」「魅力的な活動を企画しているか」をはかるための指標のひとつとなるものです。
- ・令和3年度は、ギャラリートークボランティアの募集を行わないため、館主導による研修は行いません。その代わりに、ボランティア同士が話し合い、研修内容を決めていく自主研修を行い、学芸員はサポートに回ります。そのため、活動回数は、令和2年度よりも少なくなります。
 - *ギャラリートークボランティア登録者数 20名(令和3年1月末時点)
- ・小学生美術鑑賞会ボランティアについては、令和元年とほぼ同等となる予定です。
 - *小学生美術鑑賞会ボランティア登録者数 21名(令和3年1月末時点)
- ・みんなのアトリエボランティアの登録者数は増加しています。以前は1回の活動につき2～3名と定員を設けていましたが、昨年度より申し出があれば参加できるようにしています。
 - *みんなのアトリエボランティア登録者数 10名(令和2年3月末時点)
- ・プロジェクトボランティアの活動については、令和2年度と同等となる予定です。
 - *プロジェクトボランティア登録者数 17名(令和3年1月末時点)
- ・年間の活動日数、ボランティアの参加状況、イベント参加者数の動向をふまえ、令和3年度の目標は、延べ2,400人とします。

〔一次評価の理由〕

令和3年度は、新型コロナウイルス感染拡大防止のため、ボランティアが関わるすべての事業を中止した結果、事業の参加者は0となっています。事業が行われていないため、判定不能としてF評価としました。

市民ボランティア協働事業への延べ参加者数

(単位：人)

	平成 30 年度	令和元年度	令和 2 年度	令和 3 年度
ギャラリートークボランティア	433	345	中止	0 (*1)
小学生美術鑑賞会ボランティア	269	302	中止	10 (*2)
みんなのアトリエボランティア	39	38	中止	中止
プロジェクトボランティア ※	229	182	中止	15 (*3)
プロジェクト当日ボランティア	26	30	中止	中止
小計	996	897	0	0
ギャラリートーク参加者	656	403	0	0
ボランティアイベント参加者	855	1,308	0	0
小計	1,511	1,711	0	0
計	2,507	2,608	0	25

* 1 ギャラリートークは中止しましたが、第 4 期所蔵品展・朝井閑右衛門室の展示計画及び解説パネルの制作に 17 人が参加しました。

* 2 小学生美術鑑賞会でのボランティアによる引率は中止しましたが、再開に向けたレクチャーを 1 回開催し 10 人が参加しました。

* 3 イベントは全て中止しましたが、年度後半に次年度再開に向けた会議を 3 回開催し計 15 人が参加しました。

【実施目標】

- ・市民が美術館に親しみを感じ、訪れる機会をつくる。
- ・市民ボランティアが、やりがいを持っていきいきと活動できる場を提供する。

[目標設定の理由]

- ・市民感覚を持ったボランティアと協働することにより、市民にとって親しみやすい美術館により近づくことができます。また、美術館への親しみ、愛着を持ったボランティアの方々を架け橋として、より広い層の市民に美術館の魅力を知っていただく機会を増やしたいと考えています。
- ・横須賀美術館のボランティア活動は労働ではなく、美術館が担うべき社会教育の一環です。ボランティアがそれぞれの創意と経験を活かし、仲間どうし協力し、美術館ならではの活動をしていくこと、そして、やがてそれが地域の新しいコミュニティとなることを期待しています。

- ・ボランティア活動がより広がるよう努めていきます。例えば、ギャラリートークボランティアの活動の周知や、小学生美術鑑賞会ボランティアやみんなのアトリエボランティアのように、美術館主体の事業に関わっている活動の充実などを検討していきます。

[一次評価の理由]

活動休止が長期化するなか、ボランティアからは再開を求める声が多く聞かれましたが、再開が叶いませんでしたのでF評価としました。

対面型とは異なる活動形態の試みや、感染症と両立可能な事業規模等の検討を進めていますが、方向性を打ち出すまでには至りませんでした。

[評価委員会による二次評価及びコメント]

	一次評価	二次評価	評価委員会コメント
達成目標	F	F	<ul style="list-style-type: none"> ・一次評価時の留意点を妥当と評価した。[小林] ・一次評価を尊重する。[菊池] ・事業自体が行われていないため評価不能。[安藤]

	一次評価	二次評価	評価委員会コメント
実施目標	F	F	<ul style="list-style-type: none"> ・一次評価時の留意点を妥当と評価した。[小林] ・事業ができない状況において、with コロナやコロナ後のボランティア運営について、話し合いや研修等新たな時代に向けた検証・研究が行われたかどうかによって評価が変わってくる。[菊池] ・オンラインによる情報交換会や勉強会的な試みは可能かもかもしれない。[柏木] ・事業自体が行われていないため評価不能。[安藤]

Ⅱ 美術に対する理解と親しみを深める

③ 調査研究の成果を活かし、利用者の知的欲求を満たす

[一次評価]

達成目標	実施目標
A	A

【達成目標】企画展の満足度 80%以上*

[目標設定の理由]

- ・ 展覧会を企画・実施することは、美術館にとって基本的な活動のひとつであり、中でも、企画展は、波及効果が高く、最も力を注ぐべき事業といえます。こうした認識から、企画展に対する来館者の満足度を、美術館の社会教育機能の高さを示す目安としました。
- ・ 満足度は来館者へのアンケートによって算出しており、同じ方法の調査を継続的に行っています。またその満足度の内訳は「作品」「観覧料」「配置・順路」「解説」「心的充足」を計っていて、その総合数値を出しています。
- ・ ここ数年の数値の変化の経緯を総合的に判断し、目標を 80%以上としました。

※ なお、年度ごとの「企画展満足度」を算出する際には、それぞれの企画展の観覧者数の比率を反映させています。企画展Aの観覧者数をA（人）、企画展Aの満足度をa（%）とすると、年度ごとの満足度（%）は
$$(A a + B b + C c + D d + E e + F f) / (A + B + C + D + E + F)$$
で表します。

[一次評価の理由]

目標の「80%以上」を超える 90.0%という数値となりました。

	平成 30 年度	令和元年度	令和2年度	令和3年度
企画展満足度	87.4%	90.0%	90.0%	92.7%

企画展別にみると、「糸で描く物語」は中・東ヨーロッパに残る伝統刺繍やイヌイットの壁掛け、現代の美術作品など刺繍をテーマにした展覧会。「作品」が92.1%、「心的充足」が91.8%と高かった。一方「解説・順路」が68.8%と低く、幅広いラインナップであったためか、より詳しい解説を求める声が大きかったです。

「酒井駒子展」（8月23日から9月5日まで臨時休館）は、絵本作家・酒井駒子の初の本格的個展で約250点原画を紹介。満足度で高かったのは「作品」97.7%、「心的充足」94.4%、

「配置」91.4%。展覧会内容や展示空間について評価が高かった一方、「解説・順路」82.8%でした。作家の希望で解説パネルを設置しませんでした。一部からは詳しい解説が求められました。

「ビジュツカンノススメ」(9月18日から9月30日は臨時休館)は近代洋画、現代美術、グラフィックデザインなどを4つの親しみやすいキーワードでくくったテーマ展でした。最も高い満足度は「配置」86.4%、次いで「解説・順路」「心的充足」が82.6%、最も低いのが「観覧料」で75.0%だった。多くの展覧会の高評価が「作品」に対し、本展は「配置」である点が珍しいといえます。見栄えする拡大した写真や、イラストによるキャラクターをガイド役にしたのが目新しかったと推測します。

「遊べる浮世絵展」は、江戸時代の子ども暮らしを主役にした、くもんの子ども浮世絵コレクションで構成しました。満足度が高かったのは「作品」93.8%、次いで「心的充足」87.4%など作品そのものに対する満足に加え、「配置」「解説・順路」の満足度も80%を超えていることから、展示鑑賞は概ね満足度が高かったといえます。

「ミロコマチコ」は、絵本作家・画家として活躍するミロコマチコ(1981～)の代表作・新作を含めた大規模個展。満足度が高かったのは「作品」92.5%、次いで「配置」92.4%、「心的充足」91.8%。作品および配置についてはいずれも高く評価され、その他も80%以上の満足度を得ています。解説については「文字が小さすぎる」との指摘が多くありました。巡回展の仕様のため、単館での対応は難しいですが、今後の課題といたします。

毎年恒例となっている「児童生徒造形作品展」の観覧者の多くは出品された子どもたちの関係者であり、内容を批判する要素に乏しいことから、他の企画展と満足度を比較するには注意が必要ですが、総合的に98.9%と高い満足度を示しています。昨年より大幅に数値が上がっていますが、コロナ禍で「本当に来たい人だけが来る」という状況であるという理由や、地階で大規模な谷内六郎展を開催していたという複合的な理由であると推測しています。

各項目についての総合での満足度を見ていくと、企画展では「作品」「心的充足」が90%を超え、すべての項目が80%を超えています。一方「解説」については数値のばらつきがみられます。

令和3年度は、2本の企画展が臨時休館をした時期もあり、コロナが収まらない中での開催でした。しかし、開催した企画展の満足度は概して高かったため、達成目標をAとしました。

【実施目標】

- ・幅広い興味に対応するようバランスをとりながら、年間6回（児童生徒造形作品展を含む）の企画展を開催する。
- ・所蔵品展・谷内六郎展をそれぞれ年間4回、テーマをもたせた特集を組みながら開催する。
- ・知的好奇心を満たし、美術への理解を深める教育普及事業を企画・実施する。
- ・美術への興味や関心が深まる美術関連の資料（図書、カタログ等）を、図書室で収集・整理・保管・公開する。
- ・資料が探しやすく、快適に利用できる図書室環境を維持する。
- ・主として所蔵作品・資料に関する調査研究を行い、その成果を美術館活動に還元する。

[目標設定の理由]

- ・社会教育機関としての美術館は、常に知的好奇心を満足させる事業を行い、また、そのための環境を整えていかななくてはなりません。美術として扱うべき領域はとても広く、利用者の幅広い興味に応えるためには、所蔵品展以外にもさまざまなテーマを設けた企画展を開催する必要があります。作品の借用が許される期間に限度があることなどを考慮し、1カ月半から2カ月程度を目安とした年間6回の企画展を計画・開催しています。また、コレクションの魅力を紹介するために、所蔵品展及び谷内六郎展をそれぞれ年間4回開催しています。
- ・さらに、横須賀美術館では、美術への親しみ、理解を深めるために、講演会やワークショップなど、年間を通じてさまざまな教育普及事業を展開しています。ここでは、広く一般向けの教育普及事業について、評価の対象とします。
- ・これらの事業を企画・実施するための基礎が、調査研究です。範囲は、所蔵作品に関することを中心に、広く美術に関すること、教育普及に関することを含みます。

[一次評価の理由]

3年度の企画展は、一部臨時休館になりましたが、独特のテーマで幅広い作品を集めた展覧会、親しみやすい作家の個展、コレクションを含めた作品を切り口を変えた展示、浮世絵展と、多岐にわたっていました。

「糸で描く物語」は、暮らしを彩る手仕事として注目を浴びる「刺繍」の魅力を紹介する展覧会でした。中東欧の伝統刺繍、イヌイットの壁掛け、現代の絵画と多様な刺繍作品を集め、反響を呼びました。会期中、野外で東欧コンサートを開催しました。

「酒井駒子展」は絵本作家・酒井駒子の初の大規模個展で、絵本を中心に原画約200点を紹介しました。設営にも工夫を凝らし、壁への展示だけでなく、パネル、映像など空間全体で体感できるような展示が好評でした。

「ビジュツカンノススメ」は美術館を深く知るための4つのキーワードに沿って、コレクション+αの作品群を、イラストによるキャラクターをガイド役にして構成し

ました。また、出品作家6名のインタビューとアトリエを動画で新撮し、直接作家による説明や考えを会場やYouTubeでも紹介しました。

「遊べる浮世絵展」は公文造形研究会の浮世絵コレクションから子どもの遊びをテーマとした選りすぐりの浮世絵、絵巻、絵本、玩具など約170点を展示し、浮世絵の幅広い世界をご紹介します。

「ミロコマチコ」展は絵本作家として活躍するミロコの、代表作に加えて近年発表している巨大な絵画作品、書籍の装丁、立体など約200点を紹介する個展でした。また会期中には、ミュージシャンと共に彼女の特徴でもある大胆なライブ・ペインティングを披露する事業も開催しました。

所蔵品展では、会期ごとに特集を組み借用作品も加えて、より魅力のある展示となるよう努めました。

第1期は第32回全国「みどりの愛護」のつどい開催記念として、「緑」をテーマとして特集「みどり輝く」を開催しました。

第2期では、所蔵作品の中から、さまざまな生き物たちの姿を集めて構成した「いきものたちの情景」を特集しました。

第3期では、別館・谷内六郎館が修繕工事のため、本館で「生誕100年 谷内六郎展 いつまで見ててもつきない夢」を開催しました。これまでにない規模の紹介に大きな反響がありました。あわせて屋外で「アート縁日」も開催しました。

第4期では特集として「横須賀市立総合高校 美術活動の歩み」を展示しました。

谷内六郎館では、所蔵品展の会期と連動して、年4回の展示替えを行っています。1期は本館と同様「みどりの愛護」のつどい開催記念として「みどりのちから」、2期では「鳥のいる風景」3期は修繕工事で休館し、4期は「谷内六郎にみる“雪月花”」として特集を組みました。

令和3年度は、企画展が一部休館となりました。展覧会・教育普及事業はコロナをきっかけに動画制作・配信も組み合わせた紹介方法を模索しています。感染防止に努めながら図書室の運営も行ってまいりました。総合的に考え、評価をAといたしました。

教育普及事業（一般向け）については、下表のとおりとなります。

年度後半に、対面型の事業を一部、再開しましたが、感染症の影響により対面事業を控えている時期も、動画制作、WEB、オンライン開催等を試み、一定の成果を上げることができました。

展覧会に関連した屋外事業の実施

タイトル	実施日	参加者数(人)
海の広場の東欧音楽コンサート	5/30	234
LIVE PAINTING「海を混ぜるV」	2022/3/30	300

展覧会の公開動画（当館 YouTube にて公開）

タイトル	公開日	再生回数 (2022年 6月末)
糸で描く物語 刺繍と、絵と、ファッションと。紹介映像	4/12	971
☆出品作家トーク「糸で描く物語：樹田紅陽」	5/13	534
☆出品作家トーク「糸で描く物語：蝸牛あや」	5/23	696
☆出品作家トーク「糸で描く物語：小林モー子」	6/9	1,004
みみをすますように 酒井駒子 紹介映像	6/19	931
糸で描く物語 刺繍と、絵と、ファッションと。関連「東欧コンサート」	6/25	547
ビジュツカンノススメ 紹介映像	8/22	326
生誕 100 年 谷内六郎展 紹介映像	9/9	1,416
☆廣村正彰 ビジュツカンノススメ 出品作家インタビュー	9/25	369
☆中川久 ビジュツカンノススメ 出品作家インタビュー	9/29	335
☆浅見貴子 ビジュツカンノススメ 出品作家インタビュー	10/2	223
☆滝波重人 ビジュツカンノススメ 出品作家インタビュー	10/6	297
☆内田あぐり ビジュツカンノススメ 出品作家インタビュー	10/9	494
☆高田安規子・政子 ビジュツカンノススメ 出品作家インタビュー	10/13	214
くもんの子ども浮世絵コレクション 遊べる浮世絵 紹介映像	11/7	276
くもんの子ども浮世絵コレクション遊べる浮世絵 WEB 講演会 1	11/11	639
くもんの子ども浮世絵コレクション遊べる浮世絵 WEB 講演会 2	11/22	360
くもんの子ども浮世絵コレクション遊べる浮世絵 WEB 講演会 3	11/22	331
くもんの子ども浮世絵コレクション遊べる浮世絵 WEB 講演会 4	12/10	141
くもんの子ども浮世絵コレクション遊べる浮世絵 WEB 講演会 5	12/21	162
2021 年度第 4 期所蔵品展示 特集「横須賀市立総合高校 美術活動の歩み」紹介映像	1/4	452
ミロコマチコ いきものたちはわたしのかがみ 紹介映像	2/3	436
☆WEB トーク「横須賀市立総合高校 美術活動の歩み」	3/14	376
「海を混ぜる」ミロコマチコ×haruka nakamura×原田郁子	3/30	1,089

☆マークの映像は展覧会場でも上映。

展覧会関連の対面開催ワークショップ等（ZOOMを含む）

タイトル	実施日	参加者数(人)
ビジュツカンノススメ展関連事業「オンライン哲学カフェ ビジュツについておしゃべりしよう」(ZOOM)	10/23	5
ビジュツカンノススメ展関連事業「内田あぐり+松原東洋のムーヴィング・ドローイング・ワークショップ」	10/9	6
LIVE PAINTING「海を混ぜるV」	2022/3/30	300

展覧会関連以外の対面開催事業

タイトル	実施日	参加者数(人)
オトナ・ワークショップ「あずま袋を美術館でチョキチク」	7/3 (午前・午後)	8
横須賀美術館 New Year's Concert2022	2022/1/10	71
オトナ・ワークショップ「和紙にほどこす キラキラ箔もよう」	2022/1/23 (午前・午後)	11
シネマパーティ『人生フルーツ』	2022/3/26, 3/27	45
LIVE PAINTING「海を混ぜるV」	2022/3/30	300

展覧会関連以外の公開動画（当館 YouTube で公開）

タイトル	公開日	再生回数
横須賀美術館 New Year's Concert2022	2022/1/10	1,445
WEB トーク「ドキュメンタリー映画入門」	2022/4/19	236

他課との連携等

タイトル	実施日	参加者数
第45回横須賀市市民大学夏期特別講座「酒井駒子の絵本の魅力を探る」(横須賀市生涯学習財団との共催。ウェルシティ市民プラザ)	8/3	74
こっちの街とあっちの街 衣笠商店街と谷内六郎〈週刊新潮表紙絵〉(協力=衣笠小学校。衣笠商店街との連携)	10/2~12/12	1,400
Koyart (農業振興課他と連携したマルシェ)	10/23, 10/24	1,045

図書室については、美術史・デザイン・建築・写真など幅広い分野の美術図書、展覧会図録、所蔵作家に関連する資料、子ども向けの美術入門書、定期購読雑誌などを収集・公開し、多くの来館者に利用されています。室内環境の整備・維持に努め、レファレンスサービスやコピーサービスに対応し、図書室の利用を支援しています。

〔評価委員会による二次評価及びコメント〕

	一次評価	二次評価	評価委員会コメント
達成目標	A	A	<ul style="list-style-type: none"> ・企画展満足度評価における児童生徒造形作品展の位置づけを検討されたい。(作品展を除く満足度を()表記とするなど) [菊池] ・解説などに課題はあるものの、全体として92%を超える満足度は目標値をはるかに上回っていると評価する。[柏木] ・数値目標を達成している。[安藤] ・アンケートのみの評価で満足度を測ることは疑問が残る。[川口]

	一次評価	二次評価	評価委員会コメント
実施目標	A	A	<ul style="list-style-type: none"> ・感染症時の対面事業に替えての動画作成、WEB、オンライン開催等の試みは評価できる。[小林] ・コロナ禍に対応したコンテンツ制作・配信の提案・運営を行えたため。[安藤] ・コロナ禍の中、YouTube や Zoom を駆使した取り組みを評価する。[川口]

④ 学校と連携し、子どもたちへの美術館教育を推進する

〔一次評価〕

達成目標	実施目標
F	A

【達成目標】 中学生以下の年間観覧者数 22,000 人

〔目標設定の理由〕

- ・子どもたちが美術館に親しみを持ち、利用しやすくするため、さまざまな取り組みを行い、その成否を観覧者数によって評価しています。
- ・特に春～秋には、子どもや家族層にも親しみやすい企画展を1つ以上開催することとし、目標達成のための契機としています。令和3年度は、夏季と春季に、それぞれ絵本作家としても実績のある2人の作家の個展「みみをすますように 酒井駒子展」「ミロコマチコ いきものはわたしたちのかがみ」展を開催し、家族・子ども層に向けた取り組みを積極的に進めます。

〔一次評価の理由〕

学校連携事業の柱となる小学生美術鑑賞会は、3校が中止となりましたが、例年とほぼ同規模で実施することができ、また、児童生徒造形作品展も全会期を全うすることができましたが、中学生以下の観覧者が最も多い夏期の企画展会期が、新型コロナウイルスのいわゆる第5波と重なり、会期を2週間短縮したことで、観覧者を伸ばすことができなかつたため、一次評価をFとしました。

中学生以下の観覧者数

(単位：人)

	平成30年度	令和元年度	令和2年度	令和3年度
幼児	5,246	12,636	1,484	3,244
小学生	11,748	14,814	3,210	9,000
中学生	3,811	4,023	1,093	2,081
計	20,805	31,473	5,789	14,325

【実施目標】

- ・学校における造形教育の発表の場として、児童生徒造形作品展を実施する。
- ・学校及び関係機関と緊密に連携し、子どもたちにとって親しみやすい鑑賞の場をつくる。
- ・学校との連携を強化し、小学生美術鑑賞会を充実させる。
- ・美術館を活用した鑑賞教育がいっそう充実するよう、先生のための美術館活用講座をはじめ、教員の授業作りに有益な情報提供を積極的に行う。
- ・子どもたちとのコミュニケーションを通じて、美術の意味や価値、美術館の役割などに気づき、考え、楽しみながら学ぶ機会を提供する。
- ・鑑賞と表現の両方を結びつけたプログラムを実施する。

[目標設定の理由]

- ・観覧者数の面では、その年度の展覧会の内容に左右されがちな項目ですが、実施目標の面では、年間を通じた取り組みによって、展覧会の内容にかかわらず、子どもにも親しみやすい美術館であるとの評価が得られるよう努めています。
- ・子どもや家族層に向けた取り組みとともに、学校連携を重視しています。
- ・学校連携では、学校による美術館活用の推進、鑑賞を通じた言語活動の充実、校外での児童の作品展（小中学校）など、図工・美術の学習指導要領を踏まえ、具体的な取り組みを進めています。また、教員のニーズを把握するよう努めています。
- ・学校とは違った美術館ならではのプログラムを提供し、子どもたちが美術に親しむ機会を拡充することも重要です。家族で参加できるワークショップなどにも力を入れていきます。

[一次評価の理由]

感染症の影響を最小限にするため、さまざまな工夫を取り入れながら積極的に子ども・親子向け事業を展開し、一定の手ごたえを得ることができましたので、一次評価をAとしました。

児童生徒造形作品展は、全会期を全うし、12,979人の観覧者を得ることができました。また、小学生美術鑑賞会では、感染リスクを軽減するため、従来の対面型ガイダンスに代わる動画での事前ガイダンスを導入しました。

このほか、子ども・親子向け事業では、定員を減らして回数を増やす、オンライン事業を導入するなど、さまざまな対策を講じて事業を停滞させないよう努めました。

令和3年度に開催した展覧会関連の子ども・親子向け向け事業（ZOOM含む）

タイトル	実施日	参加者数(人)
谷内六郎展関連事業「こっちの街とあっちの街 衣笠商店街と谷内六郎〈週刊新潮 表紙絵〉」	8/18, 8/19	18（衣笠小学校5,6年生）
谷内六郎展関連ワークショップ「アート縁日」（当日直接参加）	10/30, 10/31	591
谷内六郎展関連ワークショップ「アート縁日」モバイルづくり（事前申し込み。小3～中学生）	10/30 （午前・午後）	11
谷内六郎展関連ワークショップ「アート縁日」カルトナージュの折り紙箱づくり（事前申し込み。小3～中学生）	10/30 （午前・午後）	8
谷内六郎展関連ワークショップ「アート縁日」ゴムパチンコづくりとパチンコ遊び（事前申し込み。年中～中学生）	10/31 （午前・午後）	17
谷内六郎展関連ワークショップ「アート縁日」虫ボットで昆虫づくり（事前申し込み。年中～中学生）	10/31 （午前・午後）	16
ミロコマチコ展関連事業「子どもオンライン美術鑑賞会～絵をみておしゃべりしよう」（ZOOM）	2022/2/26	10
ミロコマチコ展関連ワークショップ「くさつばらのふね」	2022/3/20	10

令和3年度に開催したその他の子ども・親子向け事業（ZOOM含む）

タイトル	実施日	参加者数(人)
中学生のための美術鑑賞教室	7/20～8/22 鑑賞ガイド配布 *8/23～臨時休館	---
シネマパーティ2021in 横須賀美術館『ムーンライズ・キングダム』	10/16, 10/17	34（12歳以上）
おやこワークショップ「干支（寅）の絵付け教室」	11/23	16（8組）
先生のための美術館活用講座（ZOOM）	3/29	17
市立中学校の職業体験受け入れ	通年	2（2校受け入れ、9校中止）
市立保育園9園対象の鑑賞プログラム	通年	86人（5園、5歳児。4園中止）

〔評価委員会による二次評価及びコメント〕

	一次評価	二次評価	評価委員会コメント
達成目標	F	F	<ul style="list-style-type: none"> ・一次評価時の留意点を妥当と評価した [小林] ・コロナ禍の状況にあつて、14,000人以上の児童生徒の利用があつたことは、平成30年度の実績値との比較に鑑みても感染症対策をとりながらの実績値として評価できる。[柏木] ・美術鑑賞会の中止、企画展の会期短縮等、通年での評価が難しいため。[安藤]

	一次評価	二次評価	評価委員会コメント
実施目標	A	A	<ul style="list-style-type: none"> ・感染症の影響を最小限にするための種々の取り組みを評価した。[小林] ・感染症の影響を考慮する中で、オンライン事業を導入するなど、工夫がみられる。[菊池] ・学校連携やコロナ禍に配慮した事業の実施に一定の成果が見られた。[安藤] ・学校（教育者）子どもたちに向けてのオンラインでの実施を評価する [川口]

⑤ 所蔵作品を充実させ、適切に管理する

[一次評価]

達成目標	実施目標
A	A

【達成目標】 環境調査の実施（年2回）
美術品評価委員会の開催（年1回）

[目標設定の理由]

- ・ 作品収集は、美術館としての基本的な活動のひとつです。ただし、新規収蔵作品の数量の多寡は、状況に左右される部分が大きく、また、多ければ多いほどよい、という性質のものでもないため、数値目標とするにはふさわしくないと考えます。
- ・ 収集のための情報収集や調査を継続的に行っていれば、受け入れの可否を諮問するために美術品評価委員会を開催することとなります。ここでは、少なくとも年に1回、美術品評価委員会を開催することを、収集活動に関する数値目標とします。
- ・ また、収蔵庫と展示室の環境が作品の保管、展示に適しているかどうか調べる環境調査を、年2回実施することを、保管に関する数値目標とします。

[一次評価の理由]

環境調査について、5月10日～6月7日、7月6日～8月10日の日程で2回実施しました。

また、7月17日に当年度の美術品評価委員会を開催し、購入1点を含む4件の作品・資料について審議しました。

目標を達成したため、一次評価はAとしました。

【実施目標】

- ・ 収集方針に基づき、主体性を持って積極的な収集活動を行う。
 - ・ 作品の保管、展示について適正な環境を維持し、そのチェックのため必要な調査を実施する。
 - ・ 計画的に所蔵作品の修復、額装を行う。
 - ・ 所蔵作品が広く価値を認められ、他の美術館等で開催する企画展などに活用されている。
-

[目標設定の理由]

優れた美術品を広く収集し、次世代に伝えてゆくことは、美術館の果たすべき基本的な役割です。そのために、作品の保管、展示のための適切な環境整備と、作品そのものの修復及び保護を行っています。他の機関での展示等の所蔵品の活用は、作品への影響をじゅうぶんに考慮したうえで、可能な範囲で行っています。

[一次評価の理由]

令和3年度は、購入1点を含む作品・資料4件を受け入れました。購入した1点は、横須賀出身の洋画家・矢崎千代二（1872-1947）の初期の代表作である《秋の園》（1900年、油彩）です。横須賀美術館では、開館年度以降、購入による美術品の受け入れはながらく滞っていましたが、令和元年度に設置した「美術品等取得基金」に対し、「ふるさと納税」を通じて寄せられた寄附金を活用することにより、15年ぶりに実現したものです。寄贈作品では、現代日本を代表する洋画家である野見山暁治氏から近年の作品1点を、当年度に開催した「上田薫展」に協力していただいた名古屋画廊より上田薫作品1点を受け入れました。

環境調査について、収蔵施設・1階展示室では、例年とほぼ同じ良好な結果が得られました。一方で、地下の展示室・ギャラリーでは、じゃっかんの昆虫類の侵入がみられます。また、7月初から8月初にかけての調査では、収蔵施設での有機酸値の上昇など異状がみられました。今後も動向を注視しながら、空調、清掃をはじめとする環境管理を継続して実施します。

修復・額装について、平成20年度に寄贈を受けた谷内六郎による大型の素描について、修復、新規額装を行ったうえで、当年度第3期の特集展示で展示しました。また、展示機会の多い油彩作品を中心に、固定状態の改善を目的として額の改修をおこない、映り込みの甚だしい作品については、画面を保護するアクリル板を低反射タイプのものに交換しました。

他の美術館で企画された展覧会3件に対し、所蔵作品4点を貸し出しました。

長年の懸案であった作品購入の再開が実現し、より積極的な収集活動への道が開かれました。保管・展示環境の調査と維持、所蔵作品の保全と活用のための修復・額装についても、大きな問題なく計画的に進められていることから、一次評価をAとしました。

[次年度への課題]

- ・「美術品等取得基金」を活用し、購入を含む積極的な収集活動を進めます。
- ・展示室内の環境を継続的に調査し、必要に応じて虫害防除等の処置をします。
- ・所蔵作品の現況調査を進め、展示計画を考慮した適切な修復・額装を行います。

〔評価委員会による二次評価及びコメント〕

	一次評価	二次評価	評価委員会コメント
達成目標	A	A	<ul style="list-style-type: none"> ・購入による美術品の収集が実現したことについては、関係者のご尽力を多としたいが、美術館として常態に復したということであり、今後の継続的な購入による収集に期待する。 [柏木] ・数値目標を達成している。[安藤]

	一次評価	二次評価	評価委員会コメント
実施目標	A	A	<ul style="list-style-type: none"> ・購入等作品受入の実施、環境調査・修復を行った。[安藤]

Ⅲ 訪れるすべての人にやすらぎの場を提供する

⑥ 利用者にとって心地よい空間、サービスを提供する

〔一次評価〕

達成目標	実施目標
A	A

【達成目標】

- ・館内アメニティ満足度 90%以上
- ・スタッフ対応の満足度 80%以上

【目標設定の理由】

- ・達成目標の適正基準として、それぞれ 90%以上、80%以上を設定しました。
この目標値は、過去の実績を参考に、目標を高く持ちつつも達成が決して不可能ではないと思われる数値であり、言い換えれば、目標値の達成イコールかなりの高水準を維持できていると思われる数値としました。
- ・満足度は、来館者アンケートの質問8項目（アクセス、館内印象、静かさ、スタッフ、休憩所、トイレ・授乳室、清潔感、総合）の内、外部要因や展覧会等の企画内容による影響を受けにくい2項目（スタッフ、総合）を指標として使用しています。
- ・館内アメニティ満足度については、来館者アンケートの質問事項「全体的にみて、館内では気持ちよく過ごせた。」に対する満足度（総合満足度）、スタッフ対応の満足度については、来館者アンケートの質問事項「スタッフの対応・案内は適切だった。」に対する満足度を指標としています。
なお、原因を究明し改善に役立てるため、24年度から5段階評価に加え、「特によかったところ、よくなかったところ」を具体的に記述していただく欄を設けています。

〔一次評価の理由〕

館内アメニティ満足度、スタッフ対応の満足度はともに高水準で推移しています。館内アメニティ満足度については、平成30年度に続き目標を達成しており、スタッフ対応の満足度についても高水準で目標を達成しています。

	平成 30 年度	令和元年度	令和2年度	令和 3 年度
館内アメニティ満足度	95.1%	93.5%	95.7%	95.8%
スタッフ対応の満足度	88.5%	88.1%	92.9%	93.2%

館内アメニティ満足度に関して、「自然を活かした立地と建物、全体に調和がとれて居心地良い」などの、当館の環境についてのご意見を多くいただきました。

一方で施設の劣化は年々進んでおりますので、安全性と美観を維持し、お客様が気持ち良く過ごすことができるよう、改善に向けて今後も工夫を重ねていきます。

【実施目標】

- ・ 建築のイメージを損なわないよう、じゅうぶんなメンテナンス、館内清掃を行う。
 - ・ 受託事業者と協力して、ホスピタリティのある来館者サービスを実践する。
 - ・ 運営事業者と協力して、付帯施設（レストラン及びミュージアムショップ）を来館者ニーズに応じて運営する。
-

【目標設定の理由】

- ・ 横須賀美術館が来館者に好ましい印象を持たれている大きな要因の一つは、周囲の豊かな自然と、その風景と調和したユニークな建物です。しかし、海のそばに立地しているため、強い風雨にさらされることも多く、また塩害などによる老朽化が進んでいることも事実です。建築の魅力をいつまでも来館者に伝えていくためには、適切なメンテナンス、清掃を継続していくことが重要です。
- ・ また、スタッフの対応によって、美術館に対する印象は大きく左右されますので、受付・展示監視スタッフ等の受託事業者との緊密な連携を図り、来館者の立場に立ったより良い接客を目指します。
- ・ 美術館を訪れた際の買い物や食事も、来館者の大きな楽しみです。レストラン及びミュージアムショップと連携し、来館者のニーズに即応したサービスの提供がなされるよう、知恵を出し合い、工夫を重ねていきます。

【一次評価の理由】

(メンテナンス)

- ・ 谷内六郎館展示室内に、雨漏りが発生したため、屋根の防水工事を実施しました。
- ・ 谷内六郎館外回りのガラスを支えるサッシの腐食が目立ち、耐久性と美観に問題があったため、建具の改修を行い、環境の維持に努めました。
- ・ 本館屋根ガラスのシーリングの腐食により、雨漏りが発生することがあったため、劣化部分のシーリングの張替え修繕を実施しました。

【令和3年度の主な修繕（100万円以上の案件を抽出）】

区分	案件	金額（円）
施設	屋上防水改修その他工事	13,120,703
	谷内六郎館建具改修修繕	4,785,000
	本館屋根ガラスシーリング修繕	2,134,703

(清掃)

- ・日常の清掃について、利用状況に応じて重点を移す効率的な清掃を心掛けています。

(受付・展示監視)

- ・受付や展示監視に従事するスタッフは、来館者と直に接するためクレームの対象となりやすい立場にあります。特に展示監視は、展示物に触ろうとする来館者や迷惑行為をしている来館者への注意などを行うため、クレームを受けやすい業務です。年に数件のクレームはありますが、受託事業者の自助努力（研修、スタッフの入替など）や、館内における情報の共有化の促進によって日々改善の努力を続けており、満足度の数値も一定以上の水準に達しています。
- ・情報の共有や、来館者への対応方法の指示などをきめ細かく行う目的で、来館者からのクレーム内容や対応の記録を日報として毎日提出するよう、平成21年度より展示監視スタッフに義務付けています。
また平成26年10月の受託事業者変更時から受付スタッフにも日報の提出を義務付けており、課題が生じた場合に迅速に対応する事ができるようにしています。
- ・現在の受託事業者においては、社内講師による研修や外部講師による接客マナー研修を実施するとともに、事業者独自の覆面調査員による接客チェックも行なわれており、その結果はスタッフ対応の満足度向上となって現れていると考えられます。

(ミュージアムショップ)

- ・利用者アンケートの満足度が向上するよう、定期的な打合せを実施し事業者と協力しています。

(レストラン)

- ・メニューの見直しなど運営事業者の自助努力により満足度はかなり向上しています。満足される理由としては、「質の高い食事」「おいしい」のほか、「景色がよい」ことも挙げられています。
- ・企画展ごとに、展示のイメージや内容に合わせた「コラボレーションメニュー」を考案して提供しており、好評を博しています。
- ・顧客のストレスを軽減するため、土日祝日の混雑時（12時～15時）については事前予約をとらず、先着順に対応しています。

(災害への備え)

- ・例年通り年2回の防災訓練を実施しました。避難経路の確認および誘導に重点を置いた実践に即した内容で、受付展示監視をはじめ事業者のスタッフも参加して充実した訓練となりました。

(その他)

- ・平成21年度より、毎月1回、レストラン、ショップ、受付展示監視、警備、広報、総務、学芸の参加による運営事業者連絡会議を開催し、館内で起こっている諸問題について情報共有、改善の提案、検討を行なっています。平成26年度からは設備日常監視業務の受託事業者も参加しています。

〔評価委員会による二次評価及びコメント〕

	一次評価	二次評価	評価委員会コメント
達成目標	A	A	<ul style="list-style-type: none"> ・高満足度を維持している。[菊池] ・とりわけスタッフ対応の満足度は目標値をはるかに上回り、館のイメージアップに大いに資している。[柏木] ・数値目標を高水準で達成している。[安藤] ・アンケートのみの評価で満足度を測ることは疑問が残る。[川口]

	一次評価	二次評価	評価委員会コメント
実施目標	A	A	<ul style="list-style-type: none"> ・美術館が利用者にとっての心地よい空間、サービスの提供の場であることは、自分自身も利用者の一人として実感している。[小林] ・高満足度を維持している。[菊池] ・適切なメンテナンス、運営事業者間での連携が密にとられている。[安藤]

⑦ すべての人にとって利用しやすい環境を整える

〔一次評価〕

達成目標	実施目標
F	B

【達成目標】 福祉関連事業への参加者数延べ 240 人以上

〔目標設定の理由〕

- ・福祉関連の事業は、内容の充実を図るために対象や参加人数を限定する場合があります、そうした場合は参加者数が減ることとなります。しかし、限定したからこそ、対象の特徴に応じたプログラムの計画実施が可能となり、普段美術館を利用しにくい方でも参加することができる事業を行うことができます。
- ・このため、福祉関連事業は、その年の事業の性格次第で参加者数の増減が大きくなりがちです。そこで、過去の事業内容と参加者数、令和3年度の事業内容を考慮し、参加者数延べ240人以上を令和3年度の目標値とします。

〔一次評価の理由〕

令和3年度の福祉関連事業は、「みんなのアトリエ」、イベント（出張鑑賞会）など、障害当事者の方を対象とした一部の事業を中止しました。多くの事業自体が中止となった状況であるためF評価としました。

福祉関連事業への参加者数

（単位：人）

	平成30年度	令和元年度	令和2年度	令和3年度
教材制作 ※令和3年度～ （旧：福祉関連講演会）	22	48	中止 ⇒講演会報告書	点字版パンフレット （2種）制作
福祉関連イベント	41	62	中止	中止
	14	14 ^{※1}	8 ^{※1}	12
他館連携(MULPA)	55	中止 中止		終了
みんなのアトリエ （障害児者向けワークショップ）	255	191	中止 ⇒動画	中止 ⇒動画
託児	19	実施	中止	中止
未就学児ワークショップ	39	—	※2	※2
計	445	315	8	12

- ※1 令和元年度に、福祉関連イベント（1事業分）と他館連携事業の予算を合わせ、福祉作業所対象のワークショップ3回を企画しましたが、感染症対策のため、福祉作業所スタッフ向けワークショップ1回のみを開催しました。翌年の令和2年度は、前年度に開催した福祉事業所スタッフ向けワークショップの続きとなるワークショップを開催しました。
- ※2 未就学児ワークショップは令和2年度より年齢の枠を拡大し、④に分類しています。

【実施目標】

- ・年齢や障害の有無などにかかわらず、美術に親んでもらう（環境づくりの）ための各種事業を行う。
- ・必要に応じて、対話鑑賞等の人的サポートを実践する。
- ・展覧会の観覧やワークショップ等に参加される保護者向けの託児サービスについて、積極的に周知し、利用しやすい内容で実施する。

[目標設定の理由]

- ・各種事業を通じて、美術館が健常者のみの施設ではないこと、障害の有無に関わらず美術を楽しめること、また各年齢や状況に応じた楽しみ方があることを伝えていくことが重要です。
- ・設備や什器を新規に導入することは難しいため、対話鑑賞のような人的対応によるプログラムを充実させることによって、福祉の充実につなげたいと考えています。
- ・障害者等のニーズを、職員が実践を通して知ることによって、次年度以降の取り組みや長期計画に活かします。
- ・子どもを持つ方が安心して美術館事業に参加できるよう、託児サービスを行っています。平成30年度より、託児の利用者数を目標値に含めないこととしましたが、託児は引き続き実施されます。乳幼児を持つ人が、それによって美術館利用を妨げられることのないよう、引き続き適切に託児を実施するとともに、そのための周知に努めることとします。

[一次評価の理由]

障害当事者の方の参加が難しい中、代替えとなる事業ができないか工夫を重ね、一定の成果物を公開することができたためB評価としました。

「みんなのアトリエ」は、自宅でできる創作活動をテーマに、手に入りやすい材料を使ったオンライン版「おうちでできる「みんなのアトリエ」」シリーズを6本の動画として公開することができました（再生回数 計1,043回）。対面型ワークショップ再開後には、本動画を、初めての人や場所に不慣れな障害児者が、講師や活動をあらかじめ知るための予習的素材として活用したいと考えています。

福祉講演会は、海外からの講師招聘が困難なため中止としてきましたが、令和3年度より教材制作などを行い、これまでの福祉講演会で学んだことをふまえ、視覚障害

者をはじめとする様々な来館者のアクセシビリティ向上を図ることとしました。令和3年度は、点字や触図、Uni-Voice 音声コードを用いた美術館案内とフロアガイドを作成し、視覚障害者が美術館に来やすい環境づくりをはじめました。

福祉関連イベントとして、一般社団法人アーツアライブと健康長寿課の協力を得て、認知症当事者と介護者という、これまで取り組んだ事のなかった対象へ向けた美術鑑賞プログラムを開催することができました。当事者の家族や福祉施設職員によるアンケートを読むと、みな満足度が高く、当事者がふだんと違う反応を示したので驚いたといった声が寄せられました。効果や課題の把握など、今後につながる事業となりました。

〔評価委員会による二次評価及びコメント〕

	一次評価	二次評価	評価委員会コメント
達成目標	F	F	<ul style="list-style-type: none"> ・一次評価時の留意点を妥当と評価した。[小林] ・事業の中止等、通年での評価が難しいため。[安藤]

	一次評価	二次評価	評価委員会コメント
実施目標	B	A	<ul style="list-style-type: none"> ・コロナ禍で集客事業が制限される中、点字版パンフレットの作成やオンライン動画を活用した取り組みなど、ウィズコロナを見据えた取り組みを展開している。[菊池] ・一次評価の理由に記されるとおり、多彩な代替の取り組みを評価し、Aとする。[柏木] ・コロナ禍において、オンラインでのコンテンツの実施など一定の成果が見られた。[安藤] ・コロナ禍の中新しい取り組み「アーツアライブ」を開催できたことを評価する。[川口]

⑧ 事業の質を担保しながら、経営的な視点をもって、効率的に運営・管理する

〔一次評価〕

達成目標	実施目標
F	A

【達成目標】 電気使用量、水道使用量、事務用紙使用枚数を、過去2年間の平均値を目安とする。

〔目標設定の理由〕

- ・電気料、水道使用料は、美術館の総事業費の約2割弱を占めることから、達成目標を定め管理していく必要があります。
- ・職員が努力した効果を目に見えて感じることができるよう、電気使用量、水道使用量、事務用紙使用枚数の平均値を目安とします。
- ・今までの目標は直近3年間の平均値としていました。しかし、令和2年度は臨時休館が長く参考指標とならないため、令和3年度の目標は平成30年度及び令和元年度の2年間の平均値としました。
- ・これらの使用量は、気候や来館者数等の外的要因によって大きく変動するため、個々の数値目標の達成にこだわるよりも、増減の原因分析をとおして状況把握に努めるための目安値とします。

〔一次評価の理由〕

	H30	R01	R02	R03 (目標)	R03 (実績)	達成率
総電気使用量(kWh)	2,625,210	2,569,838	2,186,586	2,597,524	2,454,236	1.06
水道使用量(m ³)	4,635	4,908	3,464	4,772	4,258	1.12
事務用紙使用枚数(枚)	226,500	240,000	188,200	233,250	179,000	1.30

電気使用量、水道使用量、事務用紙使用枚数すべて過去2年間の平均値を下回りました。目標数値を下回った理由としては、新型コロナウイルス感染症への対策に伴う美術館の臨時休館（8/23～9/30）が挙げられます。したがって、年間を通じた比較ができないことから、F評価としました。

【実施目標】 職員全員が費用対効果を常に意識し、事業に取り組む。

〔目標設定の理由〕

- ・サービスを低下させず経費を削減しスリムな運営体制を目指すためには、職員全員が費用対効果を常に意識した行動が必須であると考え、実施目標としました。

〔一次評価の理由〕

- ・各業務の予算執行時には、複数業者からの見積書徴収や競争入札を行うなど、業務の質を担保しつつ最も少ない経費で業務を執行し、経費削減を実現しています。

具体的な内容の主なものは、次のとおりです。

- ・事業者選定においては、定められた基準等により契約額及び契約先は入札によって決定します。特定の業者でなければ実施できない業務を除いて見積り合せを行っています。この結果、事業の質を担保しつつ最も少ない経費で業務を実施しています。
- ・展覧会関連の出張については、スケジュールをまとめ、出張経路を最短に設定し、経費を削減しています。
- ・一部の案内パンフレットについては、印刷業務委託ではなく、手刷りで作成することで、より少ない経費で業務を執行しています。
- ・事務用品についても在庫の整理を実施しながら、必要な物の調達を行っています。

〔次年度への課題〕

- ・電気使用量や水道使用量は天候や観覧者数等に影響される傾向がありますが、他方で職員の業務執行においては無駄な使用を控えるという意識を持ち続けるように、定例会議等で啓発を行います。
- ・業務執行において経費を節減することは当然ですが、同じ費用の中で最大限の効果を発揮できるように、計画段階や業務執行の中で継続して考えていきます。

〔評価委員会による二次評価及びコメント〕

	一次評価	二次評価	評価委員会コメント
達成目標	F	F	・一次評価時の留意点を妥当と評価した。[小林] ・臨時休館により、通年での評価が難しいため。 [安藤]

	一次評価	二次評価	評価委員会コメント
実施目標	A	A	<ul style="list-style-type: none"> ・感染症などの不測の事態で、過去の数字が参考になる状況ではないが、長年係わりを有してきた自身としては、美術館の皆さんが費用対効果を意識して仕事に取り組んでいる姿勢を評価している。[小林] ・継続して、常にコスト意識を共有している面がうかがえる。[菊池] ・サービスを低下させずに費用対効果を意識した運営ができている。[安藤]

4 横須賀美術館運営評価委員会 委員名簿

	氏名	役職等	区分
委員長	小林 照夫	関東学院大学名誉教授	学識経験者
委員 (委員長職務 代理者)	菊池 匡文	横須賀商工会議所専務理事	関係団体の代表
委員	柏木 智雄	横浜美術館副館長	社会教育関係者
委員	濱田 真行	観音崎京急ホテル社長	関係団体の代表
委員	三浦 匡	横須賀市立馬堀小学校校長	学校教育関係者
委員	中村 泰久	市民委員	市民
委員	小林 恵	市民委員	市民

5 横須賀美術館運営評価委員会条例

(設置)

第1条 博物館法（昭和26年法律第285号）第9条の規定に基づき、横須賀美術館の運営の状況の評価及びその評価の結果に基づく改善策に関し、教育委員会の諮問に応ずるため、本市に地方自治法（昭和22年法律第67号）第138条の4第3項の規定による附属機関として、横須賀美術館運営評価委員会（以下「委員会」という。）を設置する。

(組織)

第2条 委員会は、委員7人以内をもって組織する。

2 委員は、市民、学識経験者、関係団体の代表者、学校教育関係者、社会教育関係者及びその他教育委員会が必要と認める者のうちから教育委員会が委嘱する。

3 委員の任期は、2年とする。ただし、補欠委員の任期は、前任者の残任期間とする。

(委員長)

第3条 委員会に委員長を置き、委員が互選する。

2 委員長は、会務を総理し、会議の議長となる。

3 委員長に事故があるときは、あらかじめ委員長が指名した委員がその職務を代理する。

(会議)

第4条 委員会の会議は、委員長が招集する。

2 委員会は、委員の半数以上の出席がなければ、会議を開くことができない。

(委員以外の者の出席)

第5条 委員会において必要があるときは、関係者の出席を求め、その意見又は説明を聴くことができる。

(その他の事項)

第6条 この条例に定めるもののほか、委員会の運営に関し必要な事項は、委員会の同意を得て委員長が定める。

附 則

(施行期日)

1 この条例は、平成25年4月1日から施行する。

(経過措置)

2 第2条第3項の規定にかかわらず、この条例の施行後初めて委嘱された委員の任期は、平成25年9月30日までとする。

令和3年度 横須賀美術館 運営評価報告書

令和4年8月

横須賀市文化スポーツ観光部美術館運営課

〒239-0813

神奈川県横須賀市鴨居4-1

TEL 046-845-1211